



「チェルノブイリと福島の間までとこれから

～31年の活動を通してみた原発事故～

(戸村 京子)

チェルノブイリ救援・中部が1990年4月に活動を始めてから、まもなく32年。一昨年4月にチェルノブイリ救援・中部30周年記念講演会を企画しましたが、新型コロナウイルス感染拡大で延期を余儀なくされていました。改めて、会場での対面とオンラインを併用した“ハイブリット開催”で実施します。ぜひご参加ください。

【第一部】

「チェルノブイリの35年、フクシマの10年を振り返りながら
—よく分かっていることとよく分からないこと—」

- ◆講師は、長年チェルノブイリ原発事故の被災地・被災者などの研究を続けてこられた今中哲二氏(京都大学複合原子力科学研究所 非常勤研究員)で、核問題研究者の「熊取6人衆」のお一人。福島原発事故以後は福島県飯舘村を中心に活動されています。

【第二部】

福島第一原発事故被災地の放射能測定10年間のまとめ

『放射能と向き合った10年、そして未来へ(報告書)』

- ◆報告者：池田光司さん(チェルノブイリ救援・中部 理事長)



日時：3月13日(日)13時30分～16時

場所：名古屋YWCAビッグスペース(名古屋市中区)の会場と
オンライン(Zoom)の併用

参加費：無料(カンパ歓迎)

申込み：右のQRコード(申し込みフォーム)から



NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部

事務所所在地：〒460-0012 名古屋市中区千代田5丁目11-33 ST プラザ鶴舞 本館5階B

銀行名：三菱UFJ銀行 高畑支店(店番号297)

□ 座 番 号：普通 1682863

□ 座 名 義：特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部 理事長 池田 光司

郵便振替：00880-7-108610

TEL / Fax：052-228-6813 (月・水・金 10:00 ~ 17:00)

ホームページ：<http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

《南相馬便り》

(原 富男)

「油菜ちゃん」を搾油している信田沢搾油所が、今年（2022 年）の 3 月 31 日をもって、南相馬市役所との賃貸契約が切れ、移転を余儀なくされることになります。この機会に改めて、再生協と信田沢搾油所のあゆみを振り返ってみたいと思います。

1. これまでの歩み

- ① 東日本大震災（及び福島第一原発事故）のあと、南相馬市から栃木県へと避難をしていた杉内さん（現 再生協理事長）が NHK の報道を見て、ウクライナで行われたチェルノブイリ「菜の花プロジェクト」を知り、避難先から戻って自宅の水田 2ha にナタネを播種。2012 年 6 月にナタネを収穫して、栃木県で搾油。その後ナタネの播種面積が徐々に増える。
- ② 2012 年には、相馬農業高校の生徒さんたちが、独自にナタネを栽培。
- ③ 2014 年 9 月 30 日、「一般社団法人 南相馬農地再生協議会」が発足。「菜の花プロジェクト」の推進を決定。栃木県のグリーンオイルに搾油を委託し、再生協が商品化を進める。2016 年 10 月「油菜ちゃん」商標登録。
- ④ 2016 年 9 月、福大（石井先生）から「国際ロータリー財団より、搾油機提供の申し出がある」旨のお話があり、設置場所が必要となったため、南相馬市が震災復興のために無償貸与を実施していた「信田沢工業団地」を視察。
- ⑤ 2017 年 1 月、④の搾油機提供の提案を受け入れることを決定。
- ⑥ 2018 年 2 月 10 日、信田沢搾油所の開所式を挙行。8 月には LASH 社に向けて初出荷。
- ⑦ 2020 年 1 月、市役所より「2021 年で震災 10 年になるので、信田沢の賃貸契約は終了」との連絡あり。その後、1 年間の延長が認められる。
- ⑧ 2020 年 8 月、再生協で信田沢の土地購入（建屋は無償提供）の方針を決定。9 月、南相馬市役所より、購入の可否を審査するため、5 年間の経営計画と購入資金調達計画の提出を求められる。
- ⑨ 2021 年 10 月、長引くコロナ禍の影響もあり、信田沢の土地購入を断念。市に用地買収申請の取り下げ書を提出。
- ⑩ 2022 年 3 月 31 日の退去期限迫る。

2. 移転先について

期日が迫る中、再生協の有志が移転先を探してきましたが、不動産情報でも適当な物件がなく困っていたところ、南相馬市から移転先候補地の情報提供がありました。3 件ほどの候補地の中で旧電機精密工場が有力と思われます。場所は南相馬市の原町区内にあり、広さも 53 坪、信田沢搾油所とほぼ同じ面積が確保できます。

この建物は以前、電気精密関係の工場であったため床はコンクリート、壁は厚い断熱構造、冷暖房・除湿機能完備、埃を取り除けるクリーンルーム付、です。これまでの信田沢搾油所は夏の温度変化や湿気が心配でした。特にタネの保管面では安心できるものと思われます。

移転に当たっては、先ず信田沢搾油所の機材の解体・清拭、パーテーションなどの撤去、タネの移動、運搬などが必要になります。その上で、移転先の電気工事、パーテーション設置、排水管の移設、フォークリフトが出入りできる工事、等が必要になります。再生協ではこの候補地が適当かどうか現在、検討中です。予算面も含めしっかり検討して結論を出したいと思います。私の個人的な意見としては、この候補地で将来、タネの保管も搾油も行えれば良いと思いますが、移転期日が迫っていますので、当面は仮置き場として契約し、その間に再生協としての合意ができれば、搾油所として使う事も考えても良いと思います。期限内に移転できるように、また移転期間中に油の供給が滞らないようにしたいと思います。

---- 目先の利益を優先する財界と政治家たち ----

福島原発事故から 11 年、チェルノブイリ事故から 36 年経つ今、脱原発の流れに抗して原発の再開を行う政治が首をもたげている。その目的は「脱炭素」。10 年前には地球温暖化には見向きもしなかった世界の政治家たちが、近年の度重なる気候変動による災害にやっと目を向けるようになった…というのは、まやかしいである。世界の投資家たちが、脱炭素経済に金をつぎ込むからに過ぎない。脱炭素経済が、原子力村の専門家や原子力産業の生き残りを支え、その恩恵を受ける政治家たちがはしゃいでいる…という構図である。

岸田首相の国会答弁

1 月 21 日の参議院本会議で岸田首相は、今後の脱炭素社会に向けて「小型モジュール原発の開発と高速増殖炉実用化に向けて、日米の協力を力を入れる」と答弁した。質問したのは日本維新の会の浅田均議員。「小型原子炉を検討すべきではないか」と誘いをかけた。

昨年 11 月 6 日、フランスのマクロン大統領は TV 演説で、それ迄主張してきた原発縮小を翻し「新規原発建設に着手する、これこそが脱炭素に向けたフランスのメッセージだ」と明言した。また、英国は昨年 10 月、原発推進の為に「原発推進税」を導入し、電気料金に上乗せする事を決定した。何れも、脱炭素にはこれしかない…との主張だが、衰えつつある原子力産業の維持と脱炭素を連結させた、「今だけ主義」の主張に過ぎない。事故のリスクも放射性廃棄物の処分も、全て未解決のまま再び原発推進を主張する愚かさは、日米とも同じである。

ドイツの脱炭素戦略

こうした流れに抗しドイツは、脱炭素に向けて新たな戦略を打ちだしている。2022 年（今年）末までに脱原発を完了し、2030 年には電力の 65%を自然エネルギーで賄い、2038 年には脱石炭、2045 年には温室効果ガス排出をゼロにする…という政策を法制化した。ドイツのこうした政策の背景には、チェルノブイリ事故や福島事故に真摯に向き合い、再生可能エネルギー推進に向けて、研究開発や実用化の努力を積み上げてきた実績があるからである。その一つの例が、「エネル

ギー協同組合」という制度である。ドイツでは、市民が中心となって結成される再生可能エネルギーの組織「エネルギー協同組合」が 2006 年頃から始まり、現在では 800 を超えるエネルギー協同組合がある。これは基本的に個人の組合員が中心で、市民ボランティア等が運営し、企業の参入はない。最近では、学校や家庭の屋上に太陽光パネルを設定し、エネルギーの自給を目指す取り組みが広がっているという。再生可能エネルギーと言えば、メガソーラーや大規模風力発電を作る、企業が中心の日本とは大いに異なる。電力自由化を謳いながら、未だに大手電力会社が電力供給を牛耳っているのが日本である。

脱炭素と脱原発の両立を

地球温暖化が国際的な問題になったのは、1985 年オーストリアで開かれた国際会議が初めてである。当時も、原発推進派がこれを利用したせいで、温暖化問題は真剣に議論されなくなった。それから 37 年、温室効果ガスの影響はじわじわと地球をむしばみ、地球規模の災害が多発するようになった。2018 年に、スウェーデンの高校生グレタ・トゥーンベリさんの活動がきっかけとなり、温暖化問題が世界の環境保護団体などを通じて広がった。今では、脱炭素が新たな産業として株価を上げ、企業は利益対象として参入し始めた。原発もその手段として再び利用されそう。企業の脱炭素は所詮、目先の利益優先であり未来を見据えたものではない。改めて脱炭素と脱原発を両手に、未来への活動に踏み出そうではないか。

（2022 年 1 月 22 日 河田）

★ 国際送金

12 月 20 日、被災者団体への支援金（60 万円）を送金。22 日にホステージ基金の口座に届いた。

★ クリスマスカードキャンペーン

- ・11 月 22 日、日本に向けてクリスマスカードを発送。「すべてのカードが、時期を逸さずに届き、両国の子ども達が大喜びすることを心から願っています」…とのドンチェヴァさんからのメッセージ。一方、日本からは 24 日に発送した。カードと折り紙・編みぐるみなどを送った旨伝えと、「情報ありがとう。そちらのカードと諸々のプレゼントを、首を長くして待つことにします。カードの分量はうれしい驚きでした。1,033 通！皆さんは偉いです！どんなに多くの方々に参加してくださったか、どれほどの労力が費やされたかと思います。すべての方々に感謝します。」…とのメールが届いた。



＜ナロジチ「お陽さま幼稚園」の子ども達＞

- ・12 月 3 日、日本からのカードが届き、今年は、本物のニコライの日（12 月 19 日）に配ることができるとの事。その後、ホステージ基金のドンチェヴァさんからお礼のメールが届いた。「カードと手芸品に対して、心からのお礼を言いたいと思います。すべてのキャンペーン参加者のため、発送の準備を始めています。皆さんは本当に愛情と配慮をもって全てを準備、梱包してくださっているので、絶大なる感謝を申し上げたいのです。」同時に、ウクライナでのキャンペーン 16 協力団体のリストを送ってくれた。日本からも謝辞を伝えた。



＜ジトーミル市「#53 学校」の子ども達＞

- ・12 月 22 日、ドンチェヴァさんは州立小児病院とふたつの学校に行き、日本のカードを配布した。「子ども達はとても喜び、驚いていました。（特に病院で）多くの子ども達にとっては本物の奇跡でした。…何人かの看護師さん達は、かつての同病院への皆さんの訪問をよく覚えており、こんなに年月が経っても子ども達へ支援を続けてくださっていることに、驚いていました。そんな言葉を聞けて、私はとてもうれしかったです。皆さんがご健康とエネルギーに恵まれますように。」

★ ナロジチ地区病院支援

・ナロジチ地区病院への医療支援は「従来通り行う」事を、チェルノブイリホステージ基金に伝えたところ、「検査室用の機器（恒温槽*）」を設置することに決定したとの連絡が届く。

恒温槽* 検査室及び研究室で使用する。循環ポンプ付きで、水槽内の温度は常に一定に保たれる構造になっている。・・・ウィキペディアより

★ サレジオ小学校からの支援金使途

・ホステージ基金のドンチェヴァさんから提案のあった、「汚染地区の幼稚園支援プロジェクト」に役立てる事にした。「サレジオ小学校のご支援は、汚染地域子ども達にとって、とてもうれしいお知らせであり、本物のクリスマスプレゼントになるでしょう。私達の基金と子ども達から感謝申し上げます。」・・・とのメッセージが届いた。



＜サレジオ小学校のクリスマス会の様子＞

★ ホステージ基金からの新年のごあいさつ

親愛なる竹内さん（翻訳者）、親愛なる「救援・中部」運営委員の皆さん、尊敬する日本の友人の皆さん！

すべてのウクライナの友人達に代わって、また私個人より、来たる新年、2022年のお祝いを申し上げます！ また、もう一つの年が消え去っていきます。私達はこの年に大きな期待をかけていました。この年がよいことばかりをもたらしてくれることを信じていました。でも、すべてが望んでいた通りになったわけではありませんでした。最も辛かったのは、友人たちを失ったことでした…。

すべての困難にもかかわらず、来る年がもっと嬉しく楽しいものとなることを、私達は願っています。皆が、健康と、いやなことや問題を耐え抜く気力に恵まれることを願います。人生の喜びと、自分の力への信頼が与えられることを望みます。そして大事なことは、困難な時にいつでも支えてくれる、頼りになる友人たちがいるのを知っていることです。

よい祝日を、新たな気力に恵まれ、自分の力に自信を持たれますように。

2022年、新年おめでとうございます！ ジェーニャ・ドンチェヴァ

＜追伸＞

ボリス・アンドレエヴィチ・チュマク氏（チェルノブイリ消防士基金）より、『皆さんのような友人がいてうれしいです！』とのメッセージを伝えてほしい・・・との折り入ったお願いがありました。

「平和と健康、喜びと愛情に恵まれますように！」

《こぼれる笑顔と歓声 ～2021 年度のクリスマスカードキャンペーンを終えて～》

昨年 11 月から始まった今シーズンのクリスマスカードキャンペーンは、皆様の暖かいご協力のもと滞りなく終了しました。ウクライナや南相馬の子ども達から、喜びの声が届けられています。

今年度は、例年になくウクライナの郵便事情が良く、スムーズに到着しました。では、どこに届けられたかをご紹介します。

まず**ウクライナ**へは、合計 1,042 通。内訳は**ジトミル市**（青少年芸術センター・就学前実験教育施設「ABCDE」・第 12 番学校・第 25 番学校・州立精神病院・州立小児病院）、**ナロジチ地区**（ナロジチ町ギムナジウム・「お陽さま」幼稚園・ヤジベレニ村幼稚園）、**オヴルチ地区**（オルヴチ市第 3 番学校・ウィルダヌィ村幼稚園・フラドコヴィチ村学校）です。これらは私達のカウンターパートナーのドンチェヴァさんが届けてくださいました。

そして**南相馬**には、合計 1,436 通。原町聖愛こども園・青葉幼稚園・よつば保育園・あずま保育園・小高幼稚園他・静岡サレジオ小学校・さゆり幼稚園・愛知県被災者支援センター・南相馬市社会福祉協議会などです。（ウクライナと福島を合わせて、総計 2,478 通にもなりました。）

毎年このキャンペーンに参加してくださっている多くのみなさまに、心からの感謝を申し上げます。協力者の方々の輪も広がっています。そして今、このイベントはウクライナと日本の友情の架け橋となっています。サンタさんはとても忙しくて、郵便屋さんに頼まれたようですが…。

最後に事務局からのお願いですが、毎年折り紙のサンタさんが足りません。子ども達はツルよりもサンタさんをととても喜んでくれます。それから折り紙の立体物は発送するときにつぶれてしまいますのでお断りしたいと思います。以下に、喜びの声をお知らせします。（上田千津子）

* 南相馬の保護者の方からの便りご紹介（抜粋） *

帰ってきたら、イチが嬉しそうに中身を見せてくれました。ロシア語が書かれていたので、どこからだろう？と思ったら、チェルノブイリ救援の方からだったんですね。たくさんの素敵なプレゼントにも温まりました。

（救援・中部の）皆さんからのクリスマスカードと素敵な折り紙にメッセージ、ありがとうございました。

（救援・中部様からの）手作りのクリスマスカード、アキも大喜びで見えておりました。「ツリーにつるしたい!!!」とリクエストがあったので、毛糸をつけてクリスマスツリーに飾らせていただきました。心のこもった贈り物、どうもありがとうございました。

早速、クリスマスカードは家のツリーに飾り、嬉しいね!! ありがたいね!! と話していました。

クリスマスカードの支援品をありがとうございました。クリスマスカードは笑顔で見せてくれました。

ありがたいご支援をいただいて、本当に感謝しております。とても喜んでいました。こういった優しい心を持てる子に育ってくれたらいいなと思っております。

クリスマスカードもとてもかわいらしく、うちのツリーの根元にかざり、サンタさんが来る日を待ちわびています。寒い冬にホッとする支援、とてもありがたいです。

チェルノブイリ救援・中部のみなさん
素敵なクリスマスカードありがとうございました！

伊長屋 今更・そら餅



今中屋 すみれ・ばら餅



絵が飛び出したり、クリスマスにちなんだサンタクロースやトナカイなどの折り紙だったり、愛のこもった手作りクリスマスカード。子どもたちも目を輝かせて喜んでいました！

寒い日が続いていますが…🍷コロナに気を付けてお過ごしください。
どうぞご自愛くださいませ…。

MOTTO 油菜ちゃん

いよいよ南相馬再生協議会のスタッフ池田真由美さんのインタビューの最終回です。これで終わるかと思うと寂しいですね。

質問 7 最後に、ポレーシェの読者に全力で油菜ちゃんのアピールをしてください。

皆様、改めまして南相馬農地再生協議会事務局の池田です。いつもご支援いただきまして、ありがとうございます。

ご存じのとおり、油菜ちゃんの原料は遺伝子組み換えではない「キラリボシ」「キザキノナタネ」の100%純国産品種の菜種を使用。搾油は、化学溶剤や添加剤を使わずにぎゅ〜っと圧力をかけてじっくりと搾り出し、濾過工程においても自然にポタッ...ポタッ...と落として濾過を繰り返す製法を採用しています。手間はかかりますが非常に純度が高く、皆様の健康維持にとっても重要な役割を果たしてくれる油です。油菜ちゃんには、体内で作ることができない必須脂肪酸がバランス良く含まれていますので、「ティースプーンに1日1杯」を目安にお召し上がりください。動脈硬化を始めとする生活習慣病の予防や血管の若返りができる効果があるなど、いいことだらけですよ☆

また、南相馬市では市を挙げて地産地消・食育の取り組みが進んでいますが、市内の小中学校の学校給食において、令和2年度より「学校給食の食材」として油菜ちゃんを採用していただくことができました。原町区にある原町第二小学校では、南相馬市の教育ポータルサイトに油菜ちゃんを使って調理する様子を紹



介していただいたり、原町第三小学校の校長先生からは、教育委員会発行の食育広報に油菜ちゃんについてコメントを寄せていただきました。(184号に掲載しています)

新情報として、現在業務用として“一斗缶(16kg入り)”をご用意していますが、もっとお手頃で使いやすい容量が登場しました。“4リットル缶(3.6kg入り)”です。一斗缶と4リットル缶は、どちらも特注品のため、出荷まで2週間程度のお日にちをいただいています。急ぎの出荷対応や納期をご指定いただくことがありますので、ご希望に添えない場合もございますので、予めご了承くださいませようにお願い申し上げます。

ご注文は、下記メールもしくはFAXで！

minamisoma.nouchisaisei@gmail.com

FAX 0244-23-5611

そして、油菜ちゃんを主に炒め物や揚げ物の油として使っていただいている方

がいらっしゃると思いますが、そんな使い方はもったいない！事務局では、ぜひ**“生のまま”**召し上がっていただくことをおすすめしています。「でも、どうやって食べたらいいの？」というお声も新規のお客様からたびたび頂戴しますので、食べ方の一例を挙げてみました。参考にさせていただくとともに、皆様から「こんな食べ方・使い方してみたら美味しかったよ～！ やってみて！」というものがありませんでしたら、ぜひ事務局までお寄せください。

最後になりますが、油菜ちゃんは南相馬市のふるさと納税返礼品にも採用されています。「ふるさとチョイス」「ふるなび」「楽天ふるさと納税」をチェックしていただき、ぜひ南相馬市へのご支援をよろしくお願いいたします。

以上です。ありがとうございました。

【油菜ちゃん】

オススメの「生」で！ の食べ方

- ① 生野菜サラダにひと垂らし
お好きなハーブ調味塩もふりかけて。
- ② 納豆にひと垂らし
お好みの薬味と一緒にかき混ぜて。
- ③ 豚汁や味噌汁など汁物にひと垂らし
- ④ お刺身の醤油にひと垂らし
- ⑤ 卵かけご飯にひと垂らし
- ⑥ アイスcreamにひと垂らし
特にバニラ味がオススメ！

「油菜ちゃんを贈ろうプロジェクト」から感じたこと

昨年3月から始まった「油菜ちゃんを贈ろうプロジェクト」では、南相馬市のひとり親家庭や高齢者世帯などに南相馬市社会福祉協議会を通して、4回にわたり実施することができました。ご協力いただいている社協の方々に、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

お贈りした本数は、1回目は50本でしたが、先月の12月には85本となりました。コロナ感染が収まらない状況が続き、支援を必要とする家庭が増えているということを実感する数字です。食料支援ではお米も配っているとのこと。

東日本大震災、福島原発事故からもうすぐ11年が経とうとしています。被災地の方々は、この10年間懸命に生活を立て直そうと頑張ってきたことでしょう。そこにコロナという予期せぬ災害が再び襲ってきたのです。10年前は立ち直れた人たちも、今度はやはり頑張ることが難しいという人たちは、少なくないと思います。私たちは10年前の被災者だけでなく、新たな被災者の方々にも向き合っていきたいと思っています。

(市原佳代)

《放射能と向き合った 10 年、そして未来へ（放射能測定 10 年間の記録）》

「測定 10 年史（略称）」の内容紹介

（池田 光司）

「測定 10 年史」の原稿がほぼ完成し、今後まとめの章を書いて校正して印刷していく段階となりました。本来なら、「冊子完成！」ということで、この記事を書きたかったのですが、10 年分のデータを分析してまとめることは予想以上に大変で、予定より 1 か月以上原稿の完成が遅れてしまいました。ご容赦ください。ただ、10 年積み上げられたデータはとても貴重なものですので、急いで中途半端なまとめ方をするよりは、多少時間をかけてでも、丁寧に分析してまとめる方が良く判断しました。その結果、当初は 50 頁ほどになると考えていましたが、マップをはじめとした図や、データを分析したグラフを多く載せたこともあり、100 頁近くになりそうです。ここでは、冊子の目次にしたがって、各章の内容をкаいつまんで紹介します。紹介した内容を参考に、完成した折には、ぜひ冊子に目を通してください。データを取り扱っていますので、分かりづらい部分もあると思いますが、マップやグラフが豊富にありますので、「マップやグラフを見ながら、気になったところは文章を読んでみる」という読み方もできると思います。原稿をまとめながら、起こった事実を記録として残し、一人でも多くの方の記憶に残るようにしていくことの大切さを、ひしひしと感じました。この冊子が、その一助となることを願っています。

＜放射能と向き合った 10 年、そして未来へ＞の目次と内容

1. 巻頭の言葉

2. 空間線量率マップ

2-1 空間線量率とは

2-2 空間線量率測定方法

2-3 空間線量率マップの作り方

2-4 10 年間の空間線量率の変化をマップで見る

＊ 2-1～2-3 で、空間線量率をどのような形で測りマップを作成したのかを紹介します。その後 2-4 で、福島第一原発事故から 3 か月後に測定して作成した最初のマップから、2 年おきにマップを載せながら、放射能汚染の状況を見ていきます。マップを通して、どのように放射能汚染が広がって、どのように放射能レベルが下がってきたのかを、視覚的に確認していきます。併せて、作成した時期とその時の避難指示の状況を見ていきます。空間線量率（空気中を飛び交う放射線が、どの程度身体に影響を与えるか）は、避難を考えるにあたって重要な指標の一つですが、「避難指示が、必ずしも同じ空間線量率レベルで解除されてはいない」という実態が見えてきます。

3. 空間線量率測定結果分析

3-1 各地域の空間線量率の推移

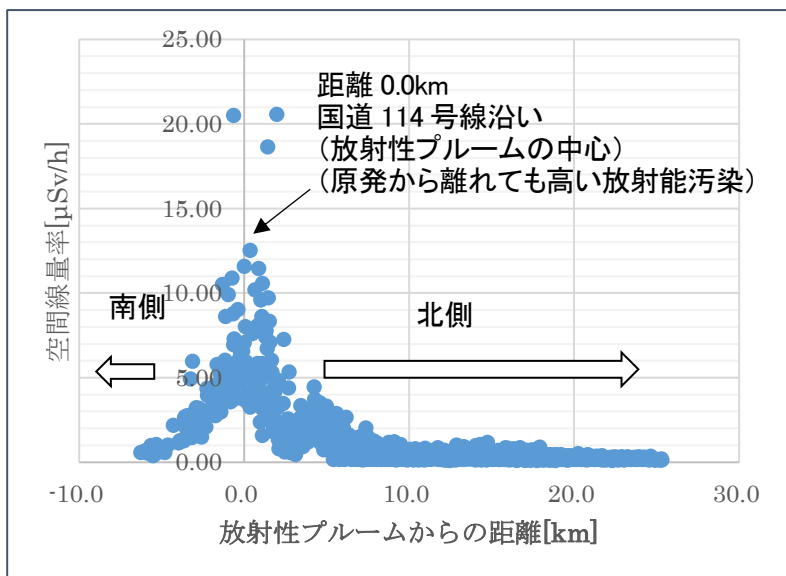
3-2 空間線量率が下がる速さ

3-3 空間線量率の分布

3-4 空間線量率と土壤放射能との関係

＊ マップは、空間線量率の高さに応じて、低い方は青系、中間は緑・黄系、高い方は赤系で色付けされています。3-1 では、空間線量率がどのように変化してきたかを、マップと同じ色を使った棒グラフで、地域ごとに見ていきます。年を経るごとに、空間線量率の低い色の割合が増えていくこと、空間線量率の高い地域と低い地域があることが、棒グラフを見ると一目で分かります。その後 3-2 では、各地域の空間線量率を平均した値（平均

空間線量率）を用いて、空間線量率が下がる速さを見ていきます。地域や時期によって若干の差はあるものの、今回の放射能汚染の原因となっている「放射性セシウムの物理的半減期」をベースに、速ければその数倍の速さで空間線量率が下がってきていることが見えてきます。「放射性セシウムの物理的半減期」による空間線量率の低下は、初めは大きいですが、年数が経つて小さくなっていきます。厳しい現実ですが、今後は空間線量率がなかなか下がらないということも考えられます。3-3 では、放射能汚染がどのように広がったかを、データ分析から明らかにしています。福島第一原発の北側では、2011 年 3 月 15 日午後、放射性プルーム（放射性物質の塊が煙のように流れる現象）が、浪江町の国道 114 号線沿いを飯舘村方面に向かい、そこに雨や雪が降り、放射性物質が雨や雪とともに降ってきて汚染が広がったと言われています。南相馬市と浪江町の空間線量率のデータを、国道 114 号線を中心にしてグラフにすると、見事にここを中心に汚染が広がったことが分かります。参考までに、そのグラフを載せます。また、全体的に空間線量率は下がっ



ていきますが、空間線量率が高い地域と低い地域の分布はそのまま残っていくことも、データを通して確認しています。3-4 では、土壌の放射線量と空間線量率が比例することを確認しています。土壌中にある放射性物質（今回は主に放射性セシウム）が多ければ、空間線量率が高くなるのは当たり前ですが、そのことをあらためてデータで確認した形になっています。

また、空間線量率が、自然放射線による空間線量率レベルに下がっても、「土壌中には、放射性セシウムが通常の数百倍も残っている場合がある」ことも確認できています。

4. 測定活動の記録

4-1 測定に参加された方々

4-2 測定の行動スケジュール、

4-3 参加された方々の言葉

4-4 マップを受け取った方々の言葉

＊ 活動の内容と参加された方々の思いを紹介します。市民活動の大切さを感じ取っていただけだと思います。

5. 未来に向けての教訓

5-1 放射能汚染の今後

5-2 原発事故による放射能汚染に対する教訓

＊ 結果的には当たり前のことになるかもしれませんが、マップ・データ分析や活動の振り返りを通して分かったことを、あらためてまとめて教訓として残したいと思います。

6. 巻末資料

＊ 紙面が許すかぎり、マップを載せたいと思います。

事務局便り

「すべての困難にもかかわらず、来る年がもっとうれしく楽しいものとなることを、私達は願っています。皆が、健康と、いやなことや問題を耐え抜く気力に恵まれることを願います…平和と健康、喜びと愛情に恵まれますように」。ホステージ基金から新年のメッセージが届いた。…ところがである。「ウクライナ情勢は緊迫度を増している」と報道は伝える。2014年春、ウクライナ領土であるクリミアのロシアによる実効支配、その後のウクライナ東部での戦争時、チェルノブイリ事故処理作業員からのメッセージには、チェルノブイリ被災者への予算は大幅に削られ、戦費と化し、そのことによってもたらされた窮状、不安、失望が綴られていた。そして今…彼らは何を思うか。(山盛)

「年末年始のカンパ」にご協力くださり ありがとうございます！

12月1日～1月20日までに、138名の方から1,401,297円のご寄付をいただきました。そのほか会費として92,000円のご入金がありました。会員の更新をしてくださった皆様、また新規に会員になってくださった方々にも感謝申し上げます。たくさんのご寄付、また応援のメッセージなどもいただき、本当にありがとうございました。皆様からの温かい応援が力になります！

ご寄付の内訳は、【ミルク99,097円、福島支援48,500円、チェルノブイリ支援16,200円、指定なし1,237,500円】でした。ご協力ありがとうございました。2022年もどうぞよろしくお願いいたします。(兼松)

編集後記

- ☆東京に住む姪家族は、幼稚園に通う子どもから一家5人全員コロナに感染。ただいま自宅療養中。でもみんな発熱症状を脱して元気になりました。子ども達は早く外で遊びたいよね。(佳)
- ☆【相馬沖のクロソイ(メノリ科)から、基準超(1,373Bq/kg)の放射性物質を検出。県魚連は出荷を停止して全量回収(2022.1.26)】【福島県双葉町で、住民帰還に向けた『準備宿泊』を開始。対象町民5,641人中15人(11世帯)の住民が事前申請。うち4世帯5人が利用登録。(2022.1.20)】…名古屋においては気づかない被災地の最新ニュースをご紹介します！(美)
- ☆コロナ禍により、長年続いている大学時代の友人との「親睦会」や勤務していた会社の「友の会(OB/OG会)」が、2年以上も延期となるなど、「林住期(五木寛之著)」を実践して人との出会いを楽しみにしている私としては、残念な気持ちでいっぱいである。しかし一方で、このコロナ禍をチャンスとして捉え、楽しい学びの時間が急増したことも事実である。この間(毎日平均7～8時間)、ネット(主に動画)の世界を利用して、実に多様な人々から情報や知識を得ることができている。例えば、田中英道氏(日本国史学会代表・東北大学名誉教授)・馬淵睦夫氏(外交官・元駐ウクライナ兼モルドバ大使)・河添恵子氏(ノンフィクション作家・中国ウォッチャー)・堤未果氏(ジャーナリスト)・三橋貴明氏(経世論研究所代表取締役社長)・藤井聡氏(京大大学院工学研究科教授)・藤井巖喜氏(国際政治学者)・鈴木宣弘氏(東大大学院農学生命科学研究科教授・農水官僚)・西鋭夫氏(スタンフォード大学フーヴァー研究所)…等々、閉塞する社会の中でこそ、視野を広げることの大切さを学んでいる。(J)

〒456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14
印刷「**エーブリント**」
TEL・FAX (052) 871-9473